

鋼特殊間久佐 リサイクル炭素繊維使用 樹脂複合材料で独自製品

大手特殊鋼流通、佐久間特殊鋼（本社・名古屋市緑区、社長・佐久間貞介氏）は、自動車や産業機械の部品のさらなる軽量化を目的とする新事業に乗り出した。このほど、使用済み炭素繊維を活用した独自の射出成型用樹脂複合材料を開発、来年度をめどに一部製品を市場投入する。引き合いに沿った最適材料

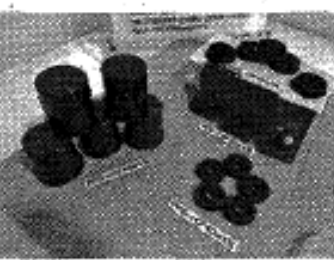
の使用と、ネットワークを生かした加工サービス提供を通じて採用拡大を図る構えだ。

中、2年前から炭素繊維素材（CFRP）の基礎調査をスタートした。

同社は素材、加工部品の取り扱う中、近年部品の売上比率向上に注力している。燃費改善などの要請により軽量化ニーズが高まる

市場に既存するCFRP事業は競合先が多いことに加え、環境対応も考慮して、リサイクルCFRPの製品化を決断。県の補助金を得た上で、高機能樹脂

2020年をめどに耐熱性などバランスに優れたPPSシリーズ、高級品種のPEEKシリーズを発売予定。順次EP（エポキシ）、PF（フェノール）シリーズと品種拡大を行いながら、自動車や産業機械の部品の高強度化、軽量化ニーズの捕捉を目指す。



Remax Composite®と同製品で成型した部品

開発したのは「Remax Composite」

ite（リマックスコンボジット・商標出願中）。熱可塑性樹脂をベースにリサイクル炭素繊維を均一分散することで、通常の射出成型に対応する上、コストを抑えながらGFRP製を大きく上回る強度特性を実現した。再生材料を素材とするため環境に優しく、既存部品の薄肉化、小型軽量化に大きく寄与する。